

六、心をより明るく——精神的なもの

(ページ 「過保護とノイローゼ」参照)

以前、ノイローゼの人が相談に来たんですけど、これは子供がノイローゼになって、親が訊きに来たんですね。その人の話を聴いていてね、私こう思ったんですね。

ノイローゼというものは、まあ、早く言ったら、おかしなのが来て、ひょうい憑依していろいろな事をやる——そうじゃないと思うんですね。

人間というのは、自分自身に何か一つ、あつぱく圧迫を与えるようなものをみんな持っていると思うんですよ。「あゝすればよかった」、「こうすればよかった」、「こうしなきゃいけない」、「あゝしなきゃいけない」と、そういう事を考える。

こういう想いの強烈な人が、ノイローゼになっていくと思うんですよ。ですからそういう人に、しゅんげん順々に話をしていったら分かんと思うんですね。

しかしこれが、中々分からないですね。

いや、お医者さんはどういうふうに言うかは分かりませんよ。これは身体の方では

なく、心の問題ですからね。

私はノイローゼの人の言う事を聴いていて、ズーツと自分の心、私自身の心の中をみていったらそうなるんですよ。「あつ、これだな」と思いましたよ。

そして自分の事を、動きが取れないように、取れないようにしているから、今度は人のせいになってしまう。「あいつがどうだ、こうくだ」になるんじゃないでしょうか。——そうすると、これは全部自分が造っているんですね。

それから、今度は分裂ぶんれつの人ですね、これは別のものなんですよ。

これは、まあ、ノイローゼと似たようなところもありますけどね、これは自分の事以外考えられないようになってしまふ訳です。全てが、被害者意識になってしまう。そして全部、人のせいにする。

で、思い通りにならないと、感情が高ぶってくるんですね。しかし、それを抑おさえる事が出来るうちは、別にどうという事はないんですよ。

その感情を抑えきれなくなった時に、ばんバーン！と爆発ばくはつしてしまつて、おかしくなるのが分裂なんですよ。

そうすると、辛抱しんぼうするとか、我慢がまんする——これが出来ないんですね。

こういう人、女の人に特に多いですよ。「我慢出来ない」っていう人——。

そういう時に、いろんな話が出来たらいいですけどもね、みんな話しないで逃げちゃう訳ですよ。

「自分は少しくらいやられてもいいから話をしよう」という人がいたらいいですけど、終いに、傍そばにも寄り付けなくなったら大変ですね。

そうなってしまうと、人が変わってしまう訳ですよ。本人でなくなる。

人が全然違うんですから、こんな物モノ（演台えんたい）ね、片手かたてでヒョイと持ち上げちゃいますよ。筆筒たんすなんかもヒョツと背負せおつちやう。小柄こがらな女の人でも、それこそエツ！と吃驚びっくりするような事やる。これは、自分では無くなってしまう。本人では無くなるんですね。ですから、そうならないように、気を付けなくてはいけないですね。

やはりそれは、環境・境遇にありますよね。これは親がいるから、子供がいる訳ですけれども、育て方にもよりますね。

「おまえが悪い」って親は言う。——子供は悪くないですね。子供は親が教育するんじゃないんですか。学校の先生はそこまではやりませんよ。やはり親なんですよ。そうしたらどうするんですか？——そうでしょう、みんなそこまでは行くんです。もう、そういうふうになっちゃって、どうしようもなくなったら、一体どうしたらいいんでしょう？——そうしたら、実は、私達は輪廻りんねを繰り返している訳ですね。今、そうなった人が、一旦いったんあの世に帰って、今度この世に出て来た時に、同じようにならないようにしなければいけないですね。

それには、気が付いた人が、自分の心を、より明るい心にして終わっていく。そして、心の中でその子供に、「しっかりとするんですよ。私の育て方が悪かったかも知れないけれども、本当にご免めんなさい。しかしね、今度生まれた時に縁があったら、私は今までのようではなくて、もっと少しでもあなたの役に立つ人間になりますからね」と、この心が、そういう人を救う訳ですよ。

「そんな永いこと、何百年も何千年も待っていられない」と思うかもしれない。しかし、自分の肉体から離れて（魂が次元の違う処に行く）行って、またこつち帰って来たら、もうここに居る訳でしょう。長い時間じゃないんですよ。今なんですよ。

今という中で、自分が行ってきた事を振り返って、心をより成長し、知っている人でそういう人がいたら、その人の保護者の人に、「こうじゃないんでしょか、私もこういう経験をしてきて、今ここにいるんですよ」と、話が出来るようになったら、素晴らしい人になる。

そしてその辺りが、それこそ、あの世にグルッと回ってこなくても変わってしまう。何故かと言いますと、暗いものが明るくなるからです。これが、お互いに協力する、切磋琢磨することですね。

「私は知らないわ」って言ったらお終い——。

しかし、物の中では中々そうはいかないですよ。心の中で、自分にしつかり言い聞かせて、一日一つでもいいですから、人の為になる事をやろう、人の為になることを話をしよう——これは出来ますよね。意識してもいいですから、最初にやっご覧なさい。そうしたら、自然と出来るようになるんですよ。

最初から、何も無かつたら出来ませんよ。私も、「どんな事かな? こんな事かな」とやりましたけれどもね、最初は意識してますよね。しかし、やっているうちに全然

考えなくなってしまうんですよ。その、やる事が大事なんですよ。

「自分はいろんなものを醸し出したかも知れない。しかし今の自分は、人にプラスになる為に存在しているのだ」ということを分かなければ駄目ですよ。

いいですか……これが私達なんですよ、人間なんですよ。

自分の事ばかりで、お金を出して教育を受けて、偉くなったからどうだこうだ、とそんなものは関係ないですよ。人間として、如何に生きるかという事が大事だということですよ。

そうしたら、おかしなものは目の前に出てこなくなると思うんですよ。それは何時になるか分からないですよ。分からないけれど、いいじゃないの、そんなものは——。

自分が変わるといふ事は、これ程素晴らしい事はないと思いますよ。

それを、「今、何とかになりたい」、「今、取り戻したい」と思うから、不可能な事を可能にしようなんて思う訳です。——こんなものはありませんよ。それをよく分かなければいけませんよ。

それによって、人間というものは、お互いに幸せになって、そしてまた、縁があつ

たら、「あつ、暫しばらくでした。この前はすみませんでした」とか、「この前は、良かったですね」と、話が出るようになったらしいんじゃないでしょうか。

そんな事出来るんですか？ ——出来ませぬ。その時、縁がある人が来たら、分かる人は、分かりますよ。

「いやあ先生、あの時はどうでしたね、こうでしたね」

と言う人、実際にいますよ。

一九九七年十月